

群馬県立桐生高等学校（通信制課程）学 校 評 価 一 覧 表 ② （令和3年度版）

（様式2）

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題			
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合						
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 充実した学びの場を生徒に提供するという本校通信制の使命を共通の認識とし、特色ある教育活動を行っていますか。	①学校生活に対してアンケートに回答する生徒の８０％以上が満足している。	A	A	A	感染症予防に注意しながら、学習ガイダンスの充実や、生徒の実態を考慮しながら行事企画運営に努めた。最終的には生徒の個性を重視した指導を行った。 係内や係間での意思疎通を図り、各教員が重点目標を意識し業務を遂行した。	Ⅰ 特色ある学校づくりについて ・多様な生徒を受け入れている通信制への関心とニーズは高まっている。通信制の特徴を活かして、学びの継続と高校卒業資格が得られるように更なる工夫をしてほしい。	生徒ひとりひとりが卒業に向けて、主体的に意欲的に学習を進められる学校づくりを推進する。行事等を通し「私たちの学校」という意識の向上を目指す。 係内や係間での協議・情報交換等を密に行う。必要に応じて根拠となる法令等を確認し、重点目標の達成を目指す。			
		②全通信制職員がガイドライン（欄外※参照）を踏まえ、本校通信制の教育課題について認識し、業務改善に努める。	A	A	A						
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③自らの学習進行を定期的に確認し、計画的に学習を進めているがアンケートに回答する生徒のうち８０％以上である。	B	A	A	生徒自らが学習の進行状況を確認するため担当教科科目の先生に声をかけ、相談をする姿が、スクーリング日ごとに見られるようになってきた。さらに計画的に学習に取り組めるように支援していきたい。丁寧でわかりやすいレポート添削の工夫や、ＩＣＴを活用したスクーリング指導を通して、基礎基本の定着と自ら学ぶ意欲の高揚等を図りたい。 生徒会と連携し学校行事の企画段階から生徒の実態に応じた内容となるように、さらに、生徒が参加しやすい行事運営に努めたい。	Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について ・今年度は感染防止のためにＩＣＴを活用した学びの工夫が見られる。さらに生徒のために積極的に工夫し、意欲的に学習に取り組めるようにしてほしい。 ・登校機会の少ない通信制でも、家庭での自学自習が課題であろう。卒業までの学習の流れを見える化し、定期的に学習進度等を示せるとよいと思う。	主体的に対話的な深い学びの視点に立った指導の実践を進める。生徒が自学自習に意欲的に取り組めるように生徒自らが学習進行状況を確認するよう促し、主体的に計画的に学習を進められるような働きかけをしていく。一方で、進捗状況等の情報提供がスムーズに行えるシステムも考えていく。平日登校の奨励と個別学習指導の充実を図る。 本校への帰属意識を高めるため、行事内容を見直し、主体的に参加する生徒が多くなるように努める。 自学自習が思うようにいかない生徒への学習支援の方法に課題があり、個々に応じた学習指導を推進したい。			
		④特別活動（学校行事等）に参加している生徒の８０％以上が満足している。	A	A	A						
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤自らの学習活動（レポート指導及びスクーリング授業）に、アンケートに回答する生徒の８０％以上が満足している。	A	A	A	気になる生徒には、土曜スクーリング等への参加や、レポート提出を促す指導を通して、各科目担当が個別の学習指導を行った。スクーリング時数の足りない生徒には放送視聴を促した。					
		⑥集団の中でお互いを尊重し、マナーを守り、清掃時は、協力して取り組んでいると感じている活動生が８０％以上である。	A	A	A				集団生活におけるマナー等の周知に努めた。さらに問題行動発生時の段階的な指導を充実させるべく、全教職員で共有理解のもとで指導する体制づくりをおこなった。 些細な生徒の変化について情報を職員間で共有し、共通理解をし、指導をすすめた。		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ＳＮＳ等の利用に係る講演会や自校のスマホルール等の取組について満足している活動生が８０％以上である。	A	A	A	常時、職員間で生徒に関する情報交換を積極的に行い、職員間での生徒共通理解に努め、丁寧な指導を推進した。 アンケートによるいじめの件数は零であった。いじめの認知基準等の職員研修や、学校での実態について月報「桐高通信」で家庭や保護者の情報の提供を行った。	Ⅲ 生徒の充実した学校生活について ・大人も含め、生徒にとっても、ＳＮＳはなくてはならないものとなった。生徒への指導に活かせるように工夫してほしい。 ・交通指導では、事故に万一あったときの保険加入や、事故防止の観点から交通ルール等について指導を継続してほしい。 ・さまざまな行事を楽しみにしている生徒が多いように思う。生徒が学校行事に主体的に関われるように工夫してほしい。	職員の体制づくりは継続して行くとともに、生徒会を中心に生徒主体の活動を通してマナーの意識向上を図る。 ＳＮＳ等に頼らない人間関係づくりを目指し、生徒会を中心に生徒への呼び掛けを継続し一層の推進を図る。 学校生活アンケート等の活用。職員間で情報交換や共通理解の上での支援をおこなう。生徒からの相談しやすい環境作りをおこなう。 いじめの認知基準を再確認し、職員の共通理解を深める。いじめの未然防止早期発見及び早期対応に組織的に取り組む。			
		⑧教育相談等を利用した生徒の８０％以上が悩みを相談しやすいと感じている。	A	A	A				健康アンケートを活用し気になる生徒について職員間で生徒情報を共有し不測の事態に備えた。危険箇所について声を掛け合い注意を促し事故防止に努めた。		
		⑨いじめ防止や早期発見に向けた取組が適切に行われていると感じている活動生が８０％以上である。	A	A	A					月報「桐高通信」等での進学や就職に関する情報発信を行った。 参加する生徒の進路への意識が高く、進路行事への関心が高い。	
	5 学校はいじめ防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っていますか。	⑩スクーリング出席生徒の８０％以上が心身の健康上の問題や体調の悪化・怪我等の緊急時への対応や体制について安心だと感じている。	A	A	A	健康アンケートを活用し気になる生徒について職員間で生徒情報を共有し不測の事態に備えた。危険箇所について声を掛け合い注意を促し事故防止に努めた。			Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について ・生徒一人一人が入学時から卒業するまでのロードマップをしっかりと持ち、進路実現に向けてがんばれるように指導をしてほしい。		
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪進路情報が適切に提供されているとスクーリング出席生徒の８０％以上が感じている。	A	A						A
			⑫進路説明会や進路講演会に出席している生徒の８０％以上が満足している。	A	A					A	普段から卒業希望者一人一人に声をかけ、耳を傾け実態把握に努めた。個別の指導時には情報を共有し通信制教職員が一致して指導を行っていききたい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 個に応じた計画的な指導を行っていますか。	⑬進路実現に向けて積極的に取り組んでいると感じている生徒が８０％以上である。	B	B	B	内容・構成・発送時期の改善を進めながら、月報「桐高通信」を計画どおり発行した。 月報「桐高通信」を計画どおり発行した。	Ⅴ 開かれた学校づくりについて ・地域からの桐生高校への期待は高いと思う。生徒たちがのんびりを情報発信することで学校への理解者を増やしてほしい	生徒が安心して学習できる環境を作る。健康アンケート等を活用し、職員間で研修等を行い、共通理解の上で支援をおこなう。充実さる。 進路情報の充実・精選を図り、実情に合った内容提供を図る。月報「桐高通信」を通しての情報提供や、進路関係の行事を見直す。 進路説明会・進路講演会等では、実際の進路活動に活かすことのできる内容・自己実現へと繋がる内容を意識し、企画運営をする。 早期から卒業希望者の実態把握に努める。具体的な行動がなかなかできない生徒への指導が課題。教員全体で連携し、より一層生徒一人一人に応じた指導を行う。			
		8 生徒は自らの進路（キャリア）について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭月報「桐高通信」を読んで学習や学校生活に必要な情報は提供されていると感じている生徒が８０％以上である。	A	A					A	月報「桐高通信」を発送後に、学校webサイトでの公開を行った。計画通り行事報告等を行った。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。		⑮定期的に更新するウェブサイトを見て情報は適切に提供されていると感じている生徒が８０％以上である。	A	A	A	Ⅵ 教育のデジタル化について ・ICTを活用した本校の魅力をアピールする方法を模索してほしい。	発行日や発行回数は維持しつつ、特に行事予定を伝える紙面を中心に、その充実を図る。 webサイトの更新を計画的に行い、生徒のニーズをつかみ、表現の工夫を図る。			
		Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ICT機器を使ったスクーリング授業が６０％以上である。	A	A			A	ICT機器を活用した授業実践をするように、さらに促していききたい。 一斉メール連絡網に未登録の生徒に対して登録をするように促していききたい。	授業実践の場でのICT機器の効果的な活用を模索する。 ICTを活用したより効率的な生徒への連絡手段について検討する。
11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰メール等のデジタルによる通知を年３回以上実施している。			A	A	A					

※ガイドライン：「高等学校通信制教育の質の確保・向上のためのガイドライン」（令和3年3月一部改定）参照

